【BRIDGE施策1(テーマ2)】金融/投資機関による自然関連情報開示促進と国際標準化を前提としたネイチャーフットプリントの開発と実証事業 【研究開発プロジェクト名】ネイチャーフットプリントを用いた金融/投資機関における活用のための実証事業

【研究開発期間】令和6年度~令和7年度

【研究開発代表機関名/研究開発責任者】株式会社価値総合研究所 山崎 清

## 【概要】

テーマ1と連携し、製造業等を中心としたネイチャーフットプリントのケーススタディ分析を実施。さらに金融機関における自然資本に関連した投 融資等の取組を参考に、ネイチャーフットプリント活用ガイダンス(試案)を作成する。

## 【背景・課題】

・資本市場におけるESG投資の主流化を背景として、温室効果ガスや自 然資本等の非財務情報への注目が増す中、自然資本を取り扱う上での共 通指標の必要性の認識が高まっている。

# 【実施内容・成果】

- ・金融機関による情報開示や金融プロダクト開発の観点からネイ チャーフットプリントの活用方法を検討。
- ・事業者によるケーススタディの結果や金融機関での取組を参考に議 論を行い、**ネイチャーフットプリント活用ガイダンス骨子(試案)を作成**。

### 事業者によるケーススタディ事例

事業者名: JX金属

評価内容:銅生産のライフサイクル(採掘~再生)の

ネイチャーフットプリントの評価

・銅牛産が事業の中核となっていることを踏まえ

ライフサイクルのネイチャーフットプリント評価を実施

・評価の際は、なるべくLocationの情報を含む一次データを利用

# 【今後の展望】

- ・テーマ1と連携して、**製造業等を中心としてネイチャーフットプリン** ト分析の活用事例を積み上げていく。
- ・令和6年度に作成したネイチャーフットプリント活用ガイダンス骨 子(試案)のコンテンツを拡充したネイチャーフットプリント活用ガイダ ンス(試案)を作成する。

## 【研究成果概要】

ネイチャーフットプリント活用ガイダンス骨子(試案)として、ネイ チャーフットプリントを金融が効果的に活用することを目的に、前提と なる投資家等が自然関連の開示情報を読み解き、それを利活用するため の重要な視点を出発点として4つの項目別に解説。

ネイチャーフットプリントガイダンス骨子(試案)

#### ガバナンス

# 【G社の事例】

環境配慮や生物多様性の保全等 に関する経営方針、これらの推 進や管理の体制などに着目し、 企業としてのコミットメントを 確認している。

## 【N社の事例】

投融資先ポートフォリオの各セ クターの直接操業に特徴づけら れる依存とインパクトの状況を 分析し、ポートフォリオの全体 像を把握している。

戦略とビジネスモデル

#### リスク管理

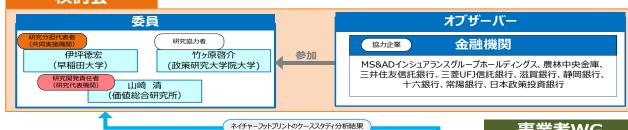
#### 【I社の事例】 投融資先企業の直接操業地点の ロケーションデータを用いて、 要注意地域との接点を分析し、 評価項目毎に要注意地域に該当 する企業割合をセクター毎に把 握している。

#### 測定指標とターゲット (KPI)

【F社の事例】 投融資先とのエンゲージメント として、投融資先の社会課題に 適したKPIの設定、KPIのSPTs を設定したSLL等の開発等を実 施している。

### 【実施体制】

#### 検討会



協力企業

早稲田大学 政策研究大学院大学 価値総合研究所 コンサル LCAエキスパートセンター、MS&ADインターリスク総研、 サステナブル経営推進機SuMPO、TCO2

# 事業者WG

味の素株式会社、AGC株式会社、株式会社資生堂、JX金属株式会社、住友林業株式会社、 積水化学工業株式会社、太平洋セメント株式会社、トヨタ自動車株式会社、農林中央金庫、 株式会社日建設計、日本電気株式会社、パナソニックホールディングス株式会社

事業者